

## 孤立死対策による住民の意識・行動変化に関する研究

—横浜市都筑区勝田団地第二自治会を対象として—

A study on change of consciousness and behavior of the inhabitants though the measures against social isolation  
of elderly people

—Case study of Kachida housing complex in Yokohama—

大崎郁斗\*・室田昌子\*\*

Ikuto Osaki\*・Masako Murota\*\*

The purpose of this study is to find a hint to solve a problem of the social isolation. I grasped what kind of change there was for consciousness, the action of the inhabitants by interviews and questionnaire survey among the second residents' association of the Kachida housing complex. It is thought that I had an effect of isolated death measures by interviews and questionnaire survey. By measures, many inhabitants felt social isolated close and said hello positively because I did not stand alone and brought an action change such as talking. In addition, it is thought that the cooperation between each group was strengthened more by measures

Keyword: Social isolation, Aging, Local activity, Community group

孤立, 高齢化, 地域活動, 自治会

### 1. 研究の背景・目的

現代の日本は急速に高齢化が進み、地域に居住する高齢者の割合が高くなっている。それに伴い、一人暮らしの高齢者が増加しており、特に団地で「孤立化」や「孤立死」をする人が増加している。その背景として、近隣住民との関係の希薄化が挙げられ、周囲から孤立した状態が続き、「孤立死」につながるケースが多く見られる。こういった問題を解決するには、住民一人一人が主体的に地域活動に参加したり、お互いに見守りを行ったりして、普段から関係を築くことが重要だと考える。

本研究では、「孤立死」対策の中でも、特に地域活動や見守りを徹底して行っている団地を対象に、対策による住民の意識・行動変化を把握し、「孤立死」の問題を解決するヒントを見つけていくことが目的である。

### 2. 団地の概要と選定理由

#### 2-1. 団地の選定理由

横浜市では、事業で孤立死対策を行っている地域がいくつかある。その中で平成 20 年度に開始した「身近な地域・元気づくりモデル事業」に着目し、平成 20 年度に、モデル地区に指定された 6 つ団地の中から選定した。6 つの内、センサー等の機器的見守りではなく、人的見守りを中心に行い、平成 20 年には「孤立死ゼロ」となり、その後も継続的に「孤立死」が減少という成果を上げている「都筑区勝田団地」を対象団地に選定した。

#### 2-2. 団地の概要

勝田団地は、昭和 42 年に入居が開始された。団地がある都

筑区の高齢化率は、12.3%(平成 23 年度)であり、横浜市の中でも一番低い区であるが、勝田団地の高齢化率は 40%と非常に高くなっている。(表 1)

#### 2-3. 調査方法

本研究では、勝田団地の第二自治会長への聞き取り調査、第二自治会の全住民を対象にしたアンケート調査、同自治会の階段委員に対するインタビュー調査の主に 3 つで、研究をすすめた。調査概要は、表 2 で示す通りである。アンケートは 320 人に配布し、一部は自治会を経由して回収した。残りは、第二自治会長と一軒ずつ訪問し回収した。インタビューは記入形式で行い、第二自治会の階段委員である 33 人に配布し、自治会を経由して回収した。

【表 2】調査概要

調査方法	調査対象	実施期間	配布数	実施者数	回収率
インタビュー調査	第二自治会の階段委員	2012年 10/10~11/1	33部	27人	81.8%
アンケート調査	第二自治会	同上	320部	142人	44.2%

### 3. おもいやりネットワーク事業連絡会と活動

#### 3-1. 概要

勝田団地では、平成 20 年に「地域の見守りネットワーク構築支援事業」のモデル地区に選ばれたことを機に、平成 20 年 6 月に「からだ地区おもいやりネットワーク事業連絡会」を発足させ取り組んだ。ここでは地域の中で、孤立しがちな一人暮らしの高齢者や、夫婦のみの高齢者世帯などに対する見守り・声かけ活動など、住民が協力して皆で行えるような仕組み作り

\* 非会員 東京都市大学環境情報学部環境情報学科(Tokyo City University)

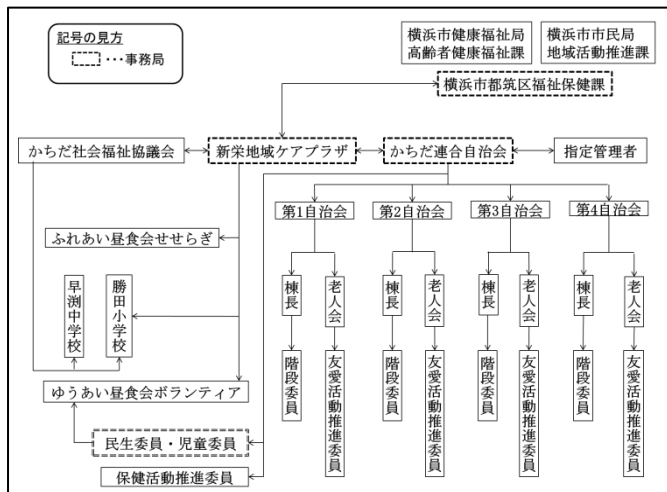
\*\* 正会員 東京都市大学環境情報学部環境情報学科(Tokyo City University)

を進めている。地域の目的としては、「孤立死を防止する」、「人と人とのつながりを持った暖かいコミュニティ作りをする」、「誰もが安心して元気に暮らせる団地を目指す」である。

### 3-2. 主な活動内容と構成団体

主な活動内容は、表5で示す通りである。おもいやりネットワーク事業連絡会が「発足後に開始した活動」・「発足後に拡大した活動」・「発足前からの活動」の3つから構成されている。

構成団体は、図1で示す通りである。かちだ連合自治会は、主におもいやりネットワークの活動を住民に浸透させる役割を担っている。サロンや太極拳等の運営・支援を行ったり、「階段委員の心得」を徹底させるため、定例会で要請したりしている。新栄地域ケアプラザは、事務局として会議での議事録作成や資料の作成、ボランティア募集などの役割を担い、自主活動になってからは区に変わり、おもいやりネットワークの中心的役割を担っている。都筑区役所は、勝田団地などと、団地の問題点や今までの活動の洗い出しを行い、今後どのような活動をしていくのかを決める基礎を作った。その後は、活動などに対



【図1】 主な構成団体

するアドバイスのみ行い、自主活動になってからは、団地側からの相談に対応するだけで、ほとんど関わりがない状態である。

### 4. 第二自治会の概要と選定理由

#### 4-1. 第二自治会の選定理由

勝田団地内でも第二自治会は、おもいやりネットワーク事業連絡会を発足させる前から、「緊急連絡先カード」や「あんしんカード」、「ライト運動」に取り組んでおり、おもいやりネットワークの先導的役割を担っていたためである。また、おもいやりネットワーク事業開始時(平成20年)から現在(平成24年)まで、孤立死の発生数がゼロという成果を上げている自治会である。そのため調査することによって解決策となるヒントが見つかると考え、本研究では第二自治会を研究対象とした。

【表3】 第二自治会の概要

区域	第12~20棟(全9棟)
世帯数	320世帯
住民数	約400人
70歳以上	197人
老人会	さわやかクラブ

#### 4-2. 第二自治会の概要

第二自治会の概要は、表3で示す通りである。自治会の加入率は95%で、70歳以上の方が平成24年度で197人と約4割を占めている。また、緊急連絡先カードやライト運動などは、第二自治会が平成20年度以前に行っていた活動が団地全体に拡大した活動である。

### 5. おもいやりネットワークの実態と効果

おもいやりネットワークの認知状況や活動の認知・実践状況、住民の意識・行動変化などについては、主にアンケート調査及びインタビュー調査により研究を進めた。アンケート回答者の基本属性は、表4に示す通りである。なお、行動変

【表4】 回答者の基本属性

属性	人数(人)	構成比(%)
全体	142	44.2
性別		
男性	40	30.1
女性	93	69.9
年齢		
65歳未満	38	28.8
65歳以上	50	37.9
75歳未満	44	33.3
75歳以上	44	33.3
家族構成		
1人暮らし	55	40.7
夫婦のみ	47	34.8
それ以外	33	24.4
居住年数		
10年未満	23	16.9
10~29年	54	39.7
30年以上	59	43.4

【表5】 主な活動内容

	実施内容	開始時期	活動主体	活動場所	頻度	対象者	運営費	協力団体	現在の状況
発足後に開始した活動	太極拳	H.21.2	かちだ連合自治会	第一集会所	毎週金曜日 9:30~11:30	全住民	モデル事業の助成金 参加費100円/回	ケアプラザ 講師(ボランティア) 指定管理者(H.20)	自主活動になっても活動継続中
	サロンひだまり	H.20.9	同上	同上	毎週水曜日 10:00~15:00	同上	モデル事業の助成金 自治会費	ケアプラザ 民生委員 社会福祉協議会	参加者増加 15~20~約35名
	ちよいボラ	H.20.6	同上	-	-	同上	-	-	活動は行われていない
	階段委員の心得の徹底	H.20.6	同上	-	月一回(定例会時)	階段委員	モデル事業の助成金	ケアプラザ 民生委員 社会福祉協議会	H.24は行われていない
発足後に拡大した活動	緊急連絡先カードの配布・回収	H.20.12 -H.21.3	かちだ連合自治会	-	-	1年目:70歳以上 単身者 2年目:全戸配布	同上	民生委員 社会福祉協議会 階段委員	更新なし 【回収率】 1年目:約95% 2年目:約86%
	あんしんカードの配布	H.20.12	同上	-	-	全戸配布	同上	同上	更新なし *自宅で管理
	ライト運動	H.21.2	さわやかクラブ(老人会)・友愛活動推進委員(6名)	第二自治会エリア	毎週水曜日 20:00~	主に老人会に加入している方	-	-	第二自治会だけで活動継続中
	日常的な見守り	H.20.6	民生委員・児童委員	団地内	常時	全住民	-	ケアプラザ 民生委員 社会福祉協議会等	階段委員を中心に見守りを徹底している
発足前からの活動	ゆうあい昼食会	H.7.11	ゆうあい昼食会ボランティア	第三集会所	毎月第一土曜日 11:30~	70歳以上の単身者	参加費200円/回 区より助成金	ケアプラザ 民生委員	定例会での参加呼びかけを行っている
	ふれあい昼食会せせらぎ	H.12	かちだ地区社会福祉協議会	第一集会所	毎月第三土曜日 11:30~	65歳以上の単身者 80歳以上の夫婦	同上	ケアプラザ 昼食会運営ボランティア 小中学生ボランティア	同上
	いきいきサロン(創作切り絵など)	H.17.4	同上	第二集会所	毎月第四日曜日 10:00~	全住民	無料	ケアプラザ	活動継続中 参加人数:約10名
	歌声クラブ	H.17	同上	同上	毎月第四日曜日 13:00~	同上	同上	同上	活動継続中 童謡・唱歌等を歌う

化については、「自分が孤立しないため」と「他人が孤立しないため」に分けて調査した。

### 5-1. おもいやりネットワークの認知状況

認知状況については、アンケート調査より、「立ち上げ当初から」、「途中から(2~3年前)」、「今年から(平成24年)」で把握した。なお「知っている」・「知らない」の回答の中には、「名前は知っているが詳しい活動内容は知らない人」や「名前も活動内容も知らない人」など様々である。

おもいやりネットワークを「知っている」と回答した人は、6割以上を占める。また、認知の時期については、「知っている」と回答した人の中で「途中から(2~3年前)」と回答した人が、約5割と最も高くなっている。おもいやりネットワークを立ち上げてから3年で、8割以上の住民に認知されている。

### 5-2. 階段委員の心得の認知・実践状況

階段委員の心得の認知・実践状況については、インタビュー調査により把握した。結果は表6に示す通りである。なお、平成24年度は、「階段委員の心得の確認」を行っていない。また、「心配だな?と思った時は、自治会長などに連絡するようにしている」の「その他」の回答は、「心配だなと思った時がない」が多かった。

認知状況をみると、全体で「知っている」と回答した人は5割以上を占める。現在(平成24年)の階段委員で「知っている」と回答した人は、7割を占めており高い数字であった。これは、以前に階段委員などの役員を経験されたことがあるからである。

実践状況をみると、現在の階段委員で、「自治会費の集金をこまめに行っている」と回答した人が、6割以上を占める中で、「配布物を手渡している」と「地域の催し物には誘い合って参加する」に「いいえ」と回答した人が、7割以上を占める。配布物は、ほとんどの方は「ドアポストに入

【表6】階段委員の心得の認知状況

質問項目	はい	いいえ	その他
「階段委員の心得」を知っている	73%	27%	0%
自治会費の集金はこまめに 行っている	69%	27%	4%
配布物は手渡している	20%	76%	4%
地域の催し物には誘い合っ て参加している	26%	74%	0%
心配だなと思った時は、自治 会長などに連絡している	35%	30%	35%

れる」と回答している。しかし、急を要するものや手渡しが必要なものは手渡していたり、ただドアポストに入れるだけでなく、手紙を添えたりするなど、各自が工夫して行っている。「地域催し物には誘い合って参加する」は、毎回誘い合うのは、負担が大きく、実践する人が少ないと考える。

### 5-3. おもいやりネットワークに関連する活動の実態

発足後開始した活動の認知度は、「サロンひだまり」が約6割と最も高く、「ちよいボラ」は1割程度である。これは、「サロンひだまり」は、民生委員などが積極的に参加の呼びかけを行っており、「ちよいボラ」は平成20年度に検討されたが、現在は活動を行っていないため、認知状況の差になっていると考える。発足後に拡大した活動の認知度は、「緊急連絡先カード」が6割以上と最も高い。属性別にみると、75歳以上と一人暮らしでは、「緊急連絡先カード」・「サロンひだまり」・「あんしんカード」の認知度がいずれも高くなっている。発足前からの活動の認知度は、ゆうあい昼食会が3割以上と最も高く、特に75歳以上の人の認知度は6割以上と高い。

【表7】活動の認知状況

	発足後開始した活動			発足後拡大した活動			発足前からの活動			
	太極拳	サロンひだまり	ちよいボラ	緊急連絡先カード	あんしんカード	ライト運動	ゆうあい昼食会	せせらぎ	いきいきサロン	歌声クラブ
全体	26.8%	58.5%	6.3%	66.2%	54.2%	16.2%	38.0%	31.0%	20.4%	9.9%
年齢										
65~74歳	26.0%	58.0%	8.0%	80.0%	54.0%	20.0%	36.0%	30.0%	20.0%	8.0%
75歳以上	31.8%	68.2%	9.1%	59.1%	61.4%	18.2%	52.3%	36.4%	13.6%	9.1%
一人暮らし	29.1%	65.5%	1.8%	70.9%	60.0%	18.2%	40.0%	32.7%	20.0%	7.3%
世帯										
夫婦のみ	27.7%	61.7%	10.6%	66.0%	57.4%	14.9%	36.2%	23.4%	14.9%	10.6%
それ以外	26.5%	50.0%	8.8%	64.7%	50.0%	17.6%	44.1%	44.1%	32.4%	14.7%
役職										
役職あり	51.3%	82.1%	23.1%	84.6%	59.0%	41.0%	66.7%	59.0%	38.5%	23.1%
役職なし	14.8%	39.3%	0.0%	59.0%	49.2%	3.3%	19.7%	6.6%	6.6%	6.6%

次にこれらの活動に、「継続的に参加しているもの」・「過去に2・3回参加したことのあるもの」・「参加していないが関心があるもの」の3つの選択肢に回答してもらった。(表8)「継続的に参加しているもの」の回答では、全体・年齢別・一人暮らしのすべてにおいて、「清掃活動」が最も多かった。

【表8】活動参加の実態

	継続的に参加している活動				過去2~3回参加したことがある活動				参加していないが興味がある活動			
	順位	活動名	活動区分	人数	順位	活動名	活動区分	人数	順位	活動名	活動区分	人数
全体	1	清掃活動	④	64	1	もちつき大会	④	48	1	カラオケ	④	18
	2	ゆうあい昼食会	③	15	2	サロンひだまり	①	35	2	ふれあい昼食会	③	16
	3	サロンひだまり	①	12	3	グラウンドゴルフ	④	29	3	ダンス	④	15
	4	グラウンドゴルフ	④	10	4	清掃活動	④	28	4	太極拳	①	11
	5	ふれあい昼食会	③	10	5	小学生の登下校見守り	④	11	5	歌声クラブ	③	10
65~74歳	1	清掃活動	④	22	1	もちつき大会	④	20	1	カラオケ	④	6
	2	グラウンドゴルフ	④	7	2	サロンひだまり	①	13	2	囲碁・将棋	④	5
	3	サロンひだまり	①	5	3	清掃活動	④	10	3	歌声クラブ	③	4
	4	ゆうあい昼食会	③	3	4	グラウンドゴルフ	④	8	4	太極拳	①	4
	5	カラオケ	④	3	5	ゆうあい昼食会	③	8	5	ふれあい昼食会	③	8
75歳以上	1	清掃活動	④	19	1	もちつき大会	④	13	1	サロンひだまり	①	9
	2	ゆうあい昼食会	③	11	2	サロンひだまり	①	12	2	カラオケ	④	8
	3	ふれあい昼食会	③	7	3	清掃活動	④	11	3	歌声クラブ	③	7
	4	カラオケ	④	6	4	グラウンドゴルフ	④	7	4	いきいきサロン	③	7
	5	サロンひだまり	①	4	5	小学校での焼き芋作り	④	5	5	ダンス	④	7
一人暮らし	1	清掃活動	④	23	1	もちつき大会	④	19	1	歌声クラブ	③	11
	2	ゆうあい昼食会	③	11	2	サロンひだまり	①	15	2	サロンひだまり	①	10
	3	ふれあい昼食会	③	7	3	グラウンドゴルフ	④	11	3	いきいきサロン	③	9
	4	サロンひだまり	①	4	4	清掃活動	④	9	4	カラオケ	④	9
	5	もちつき大会	④	3	5	ゆうあい昼食会	③	6	5	ふれあい昼食会	③	8

#### 活動区分

- ①発足後に開始した活動
- ②発足後に拡大した活動
- ③発足前からの活動
- ④その他の活動

\*多い順に並べている。

また、「過去に2~3回参加したことがある活動」は、すべてにおいて「もちつき大会」が最も高く、「サロンひだまり」が次に高かった。「参加していないが関心がある活動」は、全体でみると「カラオケ」が1割程度と最も高い。また、属性別にみると、75歳以上では、「サロンひだまり」が2割を占めており、全体が1割程度である中で、高いといえる。「参加していないが関心がある」活動は、次にどのような活動をしたよいかを考えるとときに役立つと考える。

#### 5-4. 住民の意識・行動変化

住民の意識・行動変化については、アンケート調査により、表9・10の各項目で変化があったか調査した。なお行動変化は、「自分が孤立しないため」の行動変化、「他の住民が孤立しないため」の行動変化とした。

意識変化を見てみると、全体で、「孤立死を身近に感じるようになった」人は、6割以上を占める。属性別にみると、年齢が高い、居住期間が長いほど、「安心感を持つようになった」と回答した割合が高く、65歳未満、居住期間10年未満の人は、「恐怖感を持つようになった」人の割合が高くなっている。

行動変化(1)をみると、「積極的に挨拶するようになった」が6割以上、「同じ自治会・棟だけでなく、他の自治会・棟の人とも話すようになった」と回答した人が5割を占める。また、スタッフとして参加するなど、より積極性が必要となると、行動する人の割合も低くなる傾向があります。

行動変化(2)では、「どの家庭が一人暮らしをしているか気にするようになった」と「ポスト・ベランダ・電気の点灯等を気にするようになった」が4割以上を占めるが、「一度関わりを拒否されても、継続的に関わるようにした」など、「積極的に関わる」人は少ない傾向にあった。しかし、「役職あり」だと自分・他の住民が孤立しないように行動変化する割合が

【表9】住民の意識変化

質問項目	全体	年齢別			世帯別 1人暮らし	居住期間別		
		65歳未満	65~74歳	75歳以上		10年未満	10~29年	30年以上
意識変化 「孤立死」を身近に感じるようになった	87(61.3%)	60.5%	58.0%	65.9%	63.6%	52.2%	64.8%	64.4%
「孤立死」などに対して安心感を持つようになった	49(34.5%)	21.1%	30.0%	47.7%	38.2%	8.7%	35.2%	44.1%
「孤立死」などに対して恐怖感を持つようになった	38(26.8%)	36.8%	24.0%	27.3%	30.9%	43.5%	18.5%	45.8%

【表10】住民の行動変化

質問項目	全体	年齢別			世帯別 1人暮らし	役職別 なし あり	居住期間別			
		65歳未満	65~74歳	75歳以上			10年未満	10~29年	30年以上	
行動変化 ① 団地内であった人にはより積極的に挨拶するようになった	92(64.8%)	68.4%	62.0%	68.2%	69.1%	79.5%	60.7%	69.6%	66.7%	62.7%
同じ自治会・棟だけでなく、他自治会・棟の人とも話すようになった	72(50.7%)	42.1%	54.0%	59.1%	56.4%	64.1%	39.3%	39.1%	55.6%	52.5%
② 地域活動の参加の呼びかけをされたら積極的に参加するようになった	45(31.7%)	23.7%	32.0%	38.6%	34.5%	48.7%	23.0%	30.4%	25.9%	39.0%
地域活動に継続的・定期的に参加するようになった	37(26.1%)	23.7%	24.0%	34.1%	32.7%	51.3%	13.1%	30.4%	20.4%	30.5%
自分もスタッフとして地域活動に参加するようになった	28(19.7%)	18.4%	26.0%	18.2%	21.8%	46.2%	8.2%	21.7%	14.8%	25.4%
行動変化 ③ 地域からの孤立を防ぐために何らかの努力をするようになった	34(23.9%)	15.8%	30.0%	29.5%	34.5%	41.0%	11.5%	17.4%	29.6%	23.7%
④ どの家庭が一人暮らしなどを気にするようになった	63(44.4%)	50.0%	44.0%	43.2%	38.2%	64.1%	36.1%	30.4%	46.3%	50.8%
⑤ 隣・近所のポスト・ベランダ・電気の点灯等の異変を気にするようになった	61(43.0%)	36.8%	44.0%	50.0%	43.6%	53.8%	39.3%	26.1%	38.9%	54.2%
⑥ 一度関わりを拒否されても、継続的に関わるようにした	14(9.9%)	10.5%	16.0%	4.5%	9.1%	15.4%	6.6%	4.3%	5.6%	16.9%
⑦ 他の住民に対して地域活動に参加してもらえるよう声を掛けるようになった	16(11.3%)	5.3%	24.0%	27.3%	14.5%	20.5%	6.6%	8.7%	9.3%	15.3%

高いことから、役職につくことで、より行動変化に結びつきやすいのではないかと考える。

#### 6. まとめと考察

本研究では、主にアンケート調査や自治会長に聞き取り調査を行うことによって、「おもしろネットワーク」の認知状況や対策による住民の意識・行動変化などについて把握した。

これらのことから、今回の取り組みにより、住民が「高齢者」など心配な要素がある人を認識するようになったり、積極的に挨拶をする、他の住民のポスト・ベランダなどを気にするようになるなど、住民の意識・行動に変化があったということが明らかとなった。「孤立死」が最も心配される、75歳以上・一人暮らしも、「孤立死」を身近に感じ、何か一つは地域活動に継続的に参加し、他の住民とコミュニケーションを図ったり、自分が孤立しないように行動するようになった。また、「心配だな?」と思った時は、自治会長や民生委員に連絡をするなど連絡システムも確立することができた。連絡システムを確立したことで、心配な要素がある人の情報や気になったことを素早く自治会長などに報告するようになった。その情報をもとに、自治会長や民生委員などの各団体が密に情報交換し、見守りすべき人を重点的にできていることが、「孤立死ゼロ」という成果につながっていると考える。しかし、今回の取り組みでは、地域活動に継続的に参加する人やスタッフとして参加する人は少なく、コミュニティ活動の発展や新たな担い手の獲得にはつながらなかった。

今後は、病気などで家に閉じこもりがちになり、地域活動に参加しない・できない人、意識が低い人の「孤立死」をどう防ぐのか、どのようにして担い手を確保し、今まで行ってきたことを引き継いでいくのが課題である。また、「緊急連絡先カード」・「あんしんカード」の情報更新、「階段委員の心得の確認」の継続など、今までの活動の見直しを、住民とともに考えていくことも必要である。

【謝辞】 本研究を進めるにあたり、様々なご協力をしていただいた第二自治会長さん、インタビュー調査やアンケート調査にご協力頂いた勝田団地第二自治会の皆様、また、研究にご協力頂いた方々に深く感謝します。また、アンケート用紙の回収を、一緒に一軒ずつ回ってくださった、研究の事について色々なことを教えて下さった、第二自治会長の中山敏明様に深く感謝し、ここに記して謝意を申し上げます。

#### 【参考文献】

- (1) ちちだ地区おもしろネットワーク 改訂版  
ちちだ地区おもしろネットワーク連絡会 (H21.12.発行)

- (3) 横浜市市民局市民協働推進部

『地域の見守りネットワーク構築支援事業』

<http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/tishin/kyoudou/genki/pdf/h22-mimamori.pdf>